

○平成 26 年度(第 1 回)表彰

- 1 応募者数 32 件 (募集期間 平成 26 年 8 月 29 日～9 月 30 日)
- 2 選考委員会 平成 26 年 10 月 16 日 選考委員 山部氏、三田村氏、大熊氏
- 3 表彰式
平成 26 年 10 月 27 日 (月) 13:30～15:30 北海道主催「元気もりもり食育ミーティング」の中で賞状の贈呈及び受賞者からの活動紹介並びに北海道日本ハムファイターズ 柄澤紀専任管理栄養士から「どうしたら「食」に関心を持ってもらえるか」の講演を実施。(参加者数 125 名)
- 4 受賞者

受賞者名	取組概要／評価された点
J A めむろ青年部上伏古支部 (芽室町)	町の「めむろ農業小学校」の指導者として継続的に活動
	JA 青年部として組織的、継続的に取組まれ、取組側の意識の高まりが早く、世代交代も進みやすいシステムとなっている。
なよろ食育推進ネットワーク (名寄市)	小学生や保護者を対象とした教育ファームの継続的な実施
	事業の柱を二つに分け、取組の継続性を確保している。
星澤幸子氏 (札幌市)	料理番組、講演会、料理教室等を通じた食育の啓発活動
	地域の食材や旬の食材の価値を、農村地域に代わって広く発信している。
北海道倶知安農業高等学校 (倶知安町)	高校生による小学生への地域の特産物等に関する食育活動の実施
	小学生に教えることで高校生自らの食育にもつながり、また地域の課題である規格外産物を取り上げている。
北海道文教大学「食育教室」 (恵庭市)	多くの関係者が連携した食育教室の実施
	研究機関が食育に関わることで次のステップが期待できる。

※ なよろ食育推進ネットワークは、平成 27 年度農林水産省主催「食と農林漁業の食育優良活動表彰」消費・安全局長賞を受賞

○平成 27 年度(第 2 回)表彰

- 1 応募者数 19 件 (募集期間 平成 27 年 8 月 27 日～10 月 8 日)
- 2 選考委員会 平成 27 年 11 月 5 日 選考委員 山部氏、三田村氏、大熊氏、萬谷氏
- 3 表彰式
平成 27 年 12 月 12 日 (土) 13:30～16:00 道庁赤れんが庁舎において、賞状の贈呈、受賞者からの活動紹介の後、学習院女子大学品川教授による講演会「味わい教室の実際」を実施。(参加者:関係者含み 60 名)さらに、受賞者と選考委員等による意見・情報交換会を行った。

4 受賞者

受賞者名	取組概要／評価された点
(株)菅野養蜂場 (訓子府町)	町内小学生に対する継続的な養蜂学習の実施
	環境とともに地域とともに成り立つ養蜂業を、地域の小学生に年複数回、長期間継続して伝えており、食への感謝の気持ちを育み、食への理解を深めている。
沼田町食生活改善協議会 (沼田町)	男性も対象に含めた多岐にわたる継続的な料理教室・食育教室等の実施
	農業地域としての地域の食材も活用しつつ、一人ぐらしの男性を対象に含めた多岐にわたる活動を、行政等地域の協力も得ながら継続して実施
北海道大学農学部 (札幌市)	北海道の食と農についての新聞連載・出版と「あぐり大学」の実施
	幅広い分野にわたって学びの場を提供している、新しいタイプの食育であり、今後テーマによっては深掘りしていくなどの工夫や、道内最高峰の教育に触れる機会を継続いただきたいという期待も込め、評価

○平成 28 年度(第 3 回)表彰

- 1 応募者数 11 件（募集期間 平成 28 年 8 月 5 日～10 月 7 日）
- 2 選考委員会 平成 28 年 10 月 31 日、 選考委員 鈴木氏、大熊氏、古屋氏、萬谷氏
- 3 表彰式
平成 28 年 12 月 16 日（金）道庁赤れんが庁舎にて賞状の贈呈、受賞者からの活動紹介の後、生活協同組合コープさっぽろ執行役員小松均氏による講演会を実施した。（参加者：関係者含み 50 名）さらに、受賞者と選考委員等による意見・情報交換会を行った。
- 4 受賞者

受賞者名	取組概要／評価された点
旭川市子ども農業体験塾 (旭川市)	小学生を対象として、市内の農家で通年型の農業体験を実施 農業体験について、農家が受入のみではなく主体的に運営。大学とも連携しながら、10 数年にわたり、単発ではなく自ら育て収穫した農畜産物の調理・試食まで、年間を通じて実施している。
江別市食生活改善協議会 (江別市)	幅広い世代を対象とした継続的な食生活の改善活動を実施 男性や高齢単身者にも配慮し、幅広い世帯を対象とした多岐にわたる食生活改善活動を、地域に根差し、行政等と連携しながら、長年にわたり継続して実施している。
食育事業「岩農食農塾」 (岩見沢市)	高校生が小学生に対して、作物の栽培、加工、調理などを教える。 岩見沢農業高校生が、食育について、自ら学び、深く考え、地元の小学生に対して、年間を通じて農業や食などを継続して主体的に教えている。教えられる側、教える側、双方の食育になっている取組である。

○平成 29 年度(第 4 回)表彰

- 1 応募者数 11 件（募集期間 平成 29 年 8 月 7 日～9 月 29 日）
- 2 選考委員会 平成 29 年 11 月 8 日 選考委員 鈴木氏、大熊氏、古屋氏、萬谷氏
- 3 表彰式
平成 29 年 12 月 15 日（金）14:00～16:00 ホテルポールスター札幌において、賞状の贈呈、受賞者からの活動紹介の後、札幌保健医療大学荒川教授による講演会「管理栄養士養成の現場から見た食育」を実施。（参加者：関係者含み 55 名）さらに、受賞者と選考委員等による意見・情報交換会を行った。
- 4 受賞者

受賞者名	取組概要／評価された点
栗山町 4 H クラブ	栗山町で生産されたものを栗山町で消費する「栗産栗消」の活動を通じた食育の推進 農業青年がしっかりと食育に対する意識を持ちながら、「栗産栗消」活動を通じて積極的に取り組んでおり、地域への波及も期待できる。
清水町立清水小学校	「食に関する指導計画」に基づく、計画的かつ系統的、継続的な食育の推進 食育の推進にあたり、各学年でストーリーをつくり、目標を定めて取組を積み上げ、地域が一体となって取り組んでいる。
当別町食生活改善協議会	幅広い年代を対象とした食生活改善講習会などを通じた健康づくりの推進 子どもから高齢者まで幅広い年代を対象とした食生活改善活動を、地域に根差し、行政等と連携しながら、長年にわたり継続して実施している。

○平成 30 年度(第 5 回)表彰

- 1 応募者数 10 件(募集期間 平成 30 年 7 月 13 日～9 月 14 日)
- 2 選考委員会 平成 30 年 11 月 9 日、 選考委員 鈴木氏、大熊氏、古屋氏、萬谷氏
- 3 表彰式
平成 30 年 12 月 18 日(火) ホテルポールスター札幌において、賞状の贈呈、受賞者からの活動紹介の後、札幌保健医療大学百々瀬准教授による講演会「災害に備えるべき食料の必要性和その内容」を実施。(参加者：関係者含み 62 名)さらに、受賞者と選考委員等による意見・情報交換会を行った。
- 4 受賞者

受賞者名	取組概要/評価された点
札幌市学校給食 栄養士会 (札幌市)	学校給食を主体とする活動を通じた食育の推進 長年、学校給食を取り入れた食育に取り組み、広く地域に浸透している。 児童生徒の食生活実態調査は食生活の推移・変化がわかりとても有用。
食の寺子屋直歩 塾 (帯広市)	食育講座や企業向け研修などを通じた食文化の継承 親子二代にわたって、幅広く伝統的な食文化の継承に尽力するとともに、 災害食など新たな分野も食育活動の中に取り入れている。
滝川おもしろ食 育塾と北海道滝 川西高等学校 (滝川市)	地域性を活かした農業体験を通じた食育の推進 市民性を育てるシティズンシップ教育を意識しながら、生徒が農業体験を 通じて自分たちの食を考え、食育活動に取り組んでいる。

○令和元年度(第 6 回)表彰

- 1 応募者数 9 件(募集期間 令和元年(2019 年)7 月 12 日～9 月 30 日)
- 2 選考委員会 令和元年 11 月 1 日、 選考委員 鈴木氏、大熊氏、古屋氏、萬谷氏
- 3 表彰式
令和元年 12 月 17 日(火) ホテルポールスター札幌において、賞状の贈呈、受賞者からの活動紹介の後、ヌキタ・ロフィスト貫田代表による講演会「やさしい食育で健康に生きる」を実施。(参加者：関係者含み 50 名)さらに、受賞者と選考委員等による意見・情報交換会を行った。
- 4 受賞者(五十音順)

受賞者名	取組概要/評価された点
小川 文夫 (浜頓別町)	酪農体験を通じて「食や命の大切さ」を伝える取組 酪農という強みを活かして、生きることや食べることの大切さを伝えるなど、 食の根幹に関わる食育活動に長い間取り組んでいる。
北海道旭川農業高等 学校食品科学科中華 まん班(旭川市)	「あったか旭川まん」等を活用した農業と地域の活性化への取組 生産者、企業、大学などと連携し、パートナーシップを構築しながら、地 域の活性化につながる食育活動を展開している。
有限会社 ほんだ菓子司 (砂川市)	お菓子づくりを通じた地産地消など、地域の食育を推進する取組 自分でケーキを作ることができる工房「シェフズ・ラボ」の運営や地域農 産物を使用した菓子の製造など、地域への貢献が高い。
余市町食生活改 善推進委員会 (余市町)	食生活改善の普及啓発活動を通じた健康づくりの推進 各世代のライフステージに合わせた食生活改善活動を、地域に根差し、行 政等と連携しながら、長年にわたり継続して実施している。

○令和2年度(第7回)表彰

- 応募者数 14件(募集期間 令和2年(2020年)7月13日(月)から10月2日(金))
- 選考委員会 令和2年10月30日、選考委員 鈴木氏、大熊氏、古屋氏、萬谷氏
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、表彰式・講演会を札幌で開催せず、受賞者所在の(総合)振興局長から表彰授与
- 受賞者(五十音順)

受賞者名	取組概要/評価された点
清尚学院高等学校 (函館市)	地域の食材を活かしたオリジナルレシピの開発、販売活動など、食に関わる地域交流に取り組む食育活動 地場産品を活用した商品開発や販売経験、企業との地域連携により高校生ブランドで地域活性化を図る、今後も期待できる食育活動である。
宗谷管内漁業士会 (稚内市)	地域の小・中学校、高校を対象に、水産業に対する知識・理解を深める出前授業を通じた食育活動 漁業分野は大変貴重。漁業士が自らの経験を活かして実施する講座は説得力があり、また、教える側の気づきに繋がっている点も素晴らしい。
高倉 晴美 (旭川市)	小さい頃から調理に親しむこと、農業体験、調理体験、自然に触れることを通して、食の意味を考える心を育む取組 農村文化の復興、共同炊事みんなの台所など活動内容は多岐に渡り、農業が基盤であることを活かした食育活動で、安定した実績がある。
有限会社高橋畜産 (せたな町)	豚肉の生産者として、町内小学生に生産から消費者の口に入るまでの講話と料理教室を実施し、命をいただく大切さ・有り難さを伝える食育活動 地元の豚を地元で消費しようというコンセプトが明確であり、さらに命をいただく大切さ・有り難さを伝える出前授業は食育活動の原点である。

○令和3年度(第8回)表彰

- 応募者数 12件(募集期間 令和3年(2021年)8月2日～9月30日)
- 選考懇談会 令和3年11月12日、選考員 鈴木氏、大熊氏、古屋氏、萬谷氏
- 表彰式
令和3年12月17日(金)ホテルポールスター札幌において、賞状の贈呈、受賞者からの活動紹介の後、北海道保健医療大学非常勤講師 山際 睦子氏による講演会「食べることは生きること～元気な毎日を過ごすために～」を実施。(参加者：関係者含み34名)さらに、受賞者と選考員等による意見・情報交換会を行った。
- 受賞者(五十音順)

受賞者名	取組概要/主に評価された点
株式会社大地のMEGUMI (大空町)	有機農業を通じた栽培体験や学校給食への食材提供、料理教室や出前授業など地域へ波及する食育 有機農業は場における栽培体験をはじめとする地域へ環境にやさしい農業・農産物が広がる様々な食育活動を実践し、地域の活性化につながっている。
洞爺湖町立とうや小学校 (洞爺湖町)	「地域の野菜を地域の子どもたちのために」栄養教諭、調理員、保護者、生産者が連携した給食 地域との一体感が群を抜く先駆的活動。行事食や放送での生産者紹介により残食ゼロ等の成果も出ている。
株式会社まつもと薬局栄養部 (帯広市)	「食べるって大切なんだ」をテーマに幼稚園でのゲームや地元食材を活用した食育活動 薬品販売事業者が幼稚園でゲームや地元食材を使用して食品をバランスよく選択する力を育むなど、広がり、創造性、オリジナリティがある。
森 志美江 (大樹町・大樹高校教諭)	教科の枠を超えた地域共創の取組として子ども食堂との連携、学校開放、地域企業とのコラボ活動等 高校生が作る給食献立や企業とのコラボ、料理教室など教科の枠を超えた地域に広がる創造的な食育活動で、人材育成やSDGsにもつながっている。

○令和4年度(第9回)表彰

- 1 応募者数 6件(募集期間 令和4年(2022年)7月21日～9月20日)
- 2 選考懇談会 令和4年11月4日、 選考員 加藤氏、大熊氏、古屋氏、萬谷氏
- 3 表彰式

令和4年12月19日(月)ホテルポールスター札幌において、賞状の贈呈、受賞者からの活動紹介の後、加森観光(株)川甚本店 料理長 本間 勇司氏による講演会「体に優しい日本料理～和食と日本料理～」を実施。(参加者:関係者含み37名)さらに、受賞者と選考員等による意見・情報交換会を行った。

4 受賞者(五十音順)

受賞者名	取組概要/主に評価された点
網走市食生活改善協議会 (網走市)	親子チャレンジクッキング「鮭丸ごと料理教室」など全ての世代を対象に、食を通じた健康づくりと地産地消、郷土料理継承など地域と協働する食育に取組。
	地域住民の食の自立、食を選ぶ力を身に付けることを目標とし、コロナ禍でも活動を継続し、木育×食育アウトドアキッチンなど多方面で活動を評価。
札幌市食生活改善推進員協議会 (札幌市)	「～私たちの健康は私たちの手で～札幌市に食育の輪を広げよう」をテーマに、生涯を通じた心身の健康を支える食育を推進する活動を実施。
	大都市でありながら、関係団体への協力、コロナ禍でも調理飲食以外の活動やメディア活用など、きめ細やかな活動を48年も継続していることを評価。
新篠津村食生活改善協議会 (新篠津村)	設立以来、行政と連携を図りながら幅広い年代に向けた食育活動を展開。小さな村であるが、会員数57名の組織力ある団体。
	小さな村でありながら、学校、社会福祉協議会、保育所と連携し幅広い年代に対し長年活動し、地域からの信頼が厚いことを評価。
認定栄養ケア・ステーション つがやす (帯広市)	「いつまでもおいしく食べる」をささえる地域の健康づくりの拠点として活動
	歯科医と栄養士による健康づくりの地域拠点として、地域交流活動、介護食をカフェで提供するなど健全な食生活を推進していることを評価。